

平成22年度 延岡青朋高等学校

学校関係者評価（定時制課程）

『評価』は4段階の数値で行う。（4：十分達成されている 3：ほぼ達成された 2：やや不足な点がある 1：ほとんど達成されていない）

重 点 目 標	具体的な方策（ P ）	結果と課題（ D ）	自己評価（ C ）		改善策（ A ）	学校関係者評価		
			項目別	総合		評 価		コメント
						項目別	総 合	
1 .学ぶ意欲 の向上	個に応じた指導の工夫や観点別評価の研究実施	11 月 15 日～ 19 日に公開授業週間を実施し、教員相互の研究・啓発をおこなった。平常点に態度評価（出席点）をいれることが定着。	3	3	教科担任への働きかけを継続。教科毎の反省の時間（教科会）を設定する。習熟度や T T を取り入れる	3	3	いろいろな教育指導を工夫されており、よい成果がでている。
	受講指導をより確実なものとし、修得率の向上を図る	受講指導の説明のための保護者集会の前に、職員研修を行い履修修得票の見直し実施。	2		職員全体や各教科の各研修会を充実させて個々の生徒の修得率の向上に努める。	2		
	キャリア教育の充実	進路講演会 3 回実施、 D グループを総合学習でキャリア教育 15 回実施。インターンシップ 22 名参加。	3		生徒の希望進路の早めの決定のための情報提供や職場体験実施事業所の開拓。	3		
	資格・検定取得の推進（商業関係、漢検等）	資格取得の実施と積極的な参加促進。商業科は授業で義務づけ。意識の向上を促す	3		資格試験の上級受験者を増やす試み等、義務づけ等。欠席者指導も導入する。	3		
	読書の推進	前期と後期各 1 回、読書週間を実施し、書籍に触れる機会を設けた。総貸出数 1112 冊一人当たり 6.1 冊（3 月末現在）。昨年、4.86 冊。	2		特定な人ではなく多くの生徒に利用してもらえるよう読書週間、年間を通した読書啓発や特集等紹介など広報に工夫する。	2		
2 .コミュニケーション 能力の育成	話す力・書く力（自己表現力）の育成	志望理由書については、指導が適切に行われて成果があがった。	2	2	面接指導については、全職員で当たるので、職員研修を実施し工夫を図りその充実を期す。進路対策員による卒業学年全員への細かな個別面談を活かした工夫をする。	2	2	授業の前に 1 分間のスピーチを取り入れてみてはどうか。
	就職・進学での面接作文技能の向上	面接・作文担当者を全職員に配置し細かな指導で成果がでている。進路対策員による指導。	3			3		
3 .思いやり のある優しい生徒	学校行事を通じた自己存在感の育成	定通体育大会・生活体験発表・文化祭・スポーツデー・生徒会役員改選などを通して「できる・わかる・認められる」を育成。	3	3	生徒会が中心となって実施する学校行事をさらに充実させ、生徒自らが積極的に計画・参加するような環境を設定する。	3	3	文化祭について ・生徒の出展がもう少し欲しい。 ・部門を広げ生徒の長所を引き出してあげる工夫を更に発展させ継続して欲しい。 集会等で私語が一部で見られるが大変よくなっている。
	基本的な生活習慣の確立	生活体験調査を実施。学級担任からの情報を集約し、家庭訪問や日常指導に生かすことができた。効果は今一つであった。	2		基本的な生活習慣の確立について、全職員による組織的な啓発を実施し、夜更かしをさせない指導。	2		
	集団生活でのマナー育成	全校集会時でのマナーは年々よくなってきている。出席番号順の着席はしっかりできてきた。聞く態度も静かにできている。	3		これまでの指導を継続して実施する。体育館入口での靴箱への整頓ができている。トイレ等での整理整頓が課題。	2		
	生徒会活動・交流会。ボランティア活動の推進	定例の定通生徒会交流を実施。延岡市内施設で実施された全国高総文祭文芸部門の舞台係等のボランティア活動に参加。	3		生徒会役員だけの活動にならないよう、各生徒会専門委員会による活動へとつないで、系統的な組織活動の工夫を図る。	3		
	心身の健康の保持増進	健康診断の実施はどの項目も 100%に近くなった。保健だよりや授業で指導。心・食育が課題。特に 3 食の指導が喫緊の課題。	3		これまでの指導を継続して指導。身体計測・体力テストも体育館にて継続実施。規則正しい食生活の指導。	3		

平成 2 2 年度 延岡青朋高等学校

学校関係者評価（通信制課程）

『評価』は 4 段階の数値で行う。（ 4 ：十分達成されている 3 ：ほぼ達成された 2 ：やや不足な点がある 1 ：ほとんど達成されていない）

重 点 目 標	具体的な方策（ P ）	結果と課題（ D ）	自己評価（ C ）		改善策（ A ）	学校関係者評価		
			項目別	総合		評価		コメント
						項目別	総合	
1 .学ぶ意 欲の向上	（ 1 ）学習の連続性と学習意 欲の継続性をはかる。 職員の日程表を作成し添削 ・返送を迅速化。 毎週木曜日に返送状況を点 検、教科担任へ連絡。	添削返送の迅速化は十分達成され た。今後、その維持のために返送状 況の点検、連絡会での呼びかけが必 須	4	4	○レポート添削や返送につい ては、今の良い状況を維持して いくため、引き続き点検や呼び かけを行う。 ○添削事例集も次年度継続し、 解説プリント作成や活用の研 修を進める。 ○花想会は、案内文書だけでな く、電話での呼びかけも必要。 参加者数を数値目標として掲 げる取り組みをしないと、受け 身のままでは参加者増は望め ない。 ○休学生については、復学指導 の際に連絡が取れない生徒が 相当いるので、学期末だけでな く毎月1回は電話等での状況把 握が必要である。	4	3	
	（ 2 ）添削指導の充実 コメント記入・解説プリン ト作成など添削に関わる研修 の実施。	添削事例集で他の先生方の添削が解 り、非常に良い実践であった。解説 プリントの研修はなく、取り組みに 教科間で差が出た。	4			4		
	（ 3 ）教科会の充実 スクーリング前の打合わせ を実施し、面接指導の工夫。	打合せを活用した教科が多く初期の 目標は達成された。さらに教科の具 体的・実践的な内容の研修までカバ ーできるとよかった。	3			3		
	（ 4 ）保護者と連携強化 花想会・通教延岡青朋で保 護者へ協力の呼びかけ。	担任と保護者の連絡がよく行われて おり、通教延岡青朋もよく読まれて いる。一方で花想会は本校生徒の保 護者の出席が非常に低く対策が必要。	3			3		
	（ 5 ）休学生の復学指導の強 化	38名の休学者中、10月から4名が復 学、4月から10名が復学予定（3/9 現在）。ハートサポーターとも連携 し、文書連絡後の電話連絡を徹底し た。まだ15名の意思表示がなく、通 信制で休学した生徒の把握の難しさ を感じる。	4			3		
	（ 6 ）キャリア教育の充実 スクーリング（LHR）時の補助教 材や講演会の充実	講演会は第1回52名、第2回38名の参 加で、共にインパクトの強い内容であ ったが、事前アンケートに負うところが大き い	3			3		

	(7) 読書の推進 スクーリング時の図書室を開放と読書推進。	図書室利用の生徒は僅少、しかし全職員の協力で、生徒のニーズには十分応えた。	3		読書推進には、読書への関心や習慣に負うところが大きいですが、読書に親しむよう種々の手段を講じる必要がある。	3		
	(8) 保健衛生、健康管理の実践力をつける指導。 スクーリング時に応急手当と心肺蘇生法の指導。 LHR で、喫煙・飲酒・薬物乱用等の害に関する指導。	応急手当や心肺蘇生法は、体育理論の時間に実技指導を、喫煙・飲酒・薬物乱用等の害については、LHR や保健のスクーリングで指導した。生徒は熱心に取り組んだ。さらに、「保健便り」で扱い、普及を図った。全生徒への指導の機会や知識の定着度を見る方法については課題が残る	3		実技指導に必要な器具を充実させる。 「保健便り」を工夫し、生徒の興味関心を引き付けるための通信文書とする。	4		
2 . コミュニケーション能力の育成	(!) 自己表現力の育成、話す、書く力。 少ない機会を有効活用した、面接、作文指導の充実	限られた対面指導の場を職員組織や、厳選した指導マニュアルを効果的に活用し自己表現力の育成の場とした。いずれも一朝一夕にその成果が表れるものではなく、普段から「書く力」を念頭においた指導が求められる。	3	3	○全職員が日常の各場面で、きちんとした言葉遣いの指導を心掛ける。 ○進学・就職のいずれも「受験報告書」の提出(回収)が徹底できていないので、今後より多くの「受験報告書」の回収に努める。	3	3	H R 時にスピーチを導入するなどして自己表現力を培う工夫をしたら良いと考える。
	(2) 進学・就職での面接技能の向上。 情報収集や相互補完、研修での面接指導の技能の向上。	直接、指導に携わった職員間では、左記の情報収集や相互補完といった目標は最低限は達成された。全職員の指導技能の底上げという組織的な面でのレベルアップに関しては、時間の確保や方法論に関する課題が残る。	2			3		
	(3) 学校行事への積極的参加の促進。 積極的な参加による、生徒間交流の充実。	○球技大会・定通体育大会や体育祭の行事にバスを運行を企画した。行事参加者が昨年より10%ほど増えた(定通体育大会応援は口蹄疫の影響で応援なし)。今後、競技内容、場所の選定等工夫を行い生徒会行事の充実に力を入れたい。バスの運行は続ける。 ○校外研修のバス予約が遅れ、生徒に不自由をかけた。	3		○今後もバス運行の継続と利用バスの早めの選定をする。 ○競技内容や行事の内容等を工夫する。	3		

3.思いやりのある優しい生徒	(1) 自己肯定感の育成 特別活動や部活動の充実による自己や他人を認め合う心の育成。 教育相談窓口の周知と、生徒や保護者が抱える問題の把握と解決。 担任と連絡を取り、家庭訪問の実施。	特別活動の学習内容に、保体部のインフルエンザやノロウイルス等の注意を入れることができた。時間設定の問題で2週続いて同じ内容を聞く生徒が出た点に改善が必要。 チーフコーディネーターや専門機関と頻繁に連絡を取り生徒・保護者への適切な対応や相談後の支援を行った。また月別報告書をもとに養護教諭を交えて対応を検討できた。さらに保護者会を必要に応じて開催し、保護者の相談を聞いた。 協力校にて担任が生徒、保護者と面談する際に同席し協力した。	3	3	○特別活動の学習内容(やってはいけないものだけでなく、自己肯定感を育むことのできる活動の導入など)の検討を行う。 ○月別報告書を教育相談係や養護教諭と一緒に分析しそれぞれの視点から問題点をあげ、意見交換し援助の在り方を探る。	3	3	卒業式などの式典で呼名されたら「ハイ」と返事ができるようになると素晴らしいと思う。 資源の限られた我が国では資源のリサイクルが重要であると考ええる。そのような中通信制の生徒が資源物を回収し、分別している活動は地域に大いに貢献していると考ええる。 このような体験は社会に出てから大いに役に立つと考える。
	(2) 基本的生活習慣の確立 授業・行事の際の、始めと終わりの礼の励行と、学習態度や言葉遣い等についての指導。 職員室入退室時のマナーの指導。	厳しい指導はなかったが、教師側からの声かけや促しに対して、返事をしたり、礼をしたりする生徒が増えた。	3		○声かけの実施やマナー面の「促す」指導を行う。 ○生徒会以外の生徒へのボランティア等の呼びかけを工夫する。 ○生徒会新聞に、写真など視覚的な効果のあるものを多く取り入れるなど、生徒の興味関心を引きつける工夫をする。	3		
	(3) 学校行事の充実、集団生活の基本的マナー育成 学校行事の周知と、参加を呼びかけ。 他校や地域の諸活動の情報を生徒へ周知。 学校主催の清掃活動など、ボランティア活動への参加者の増加。	通教や連絡便、校内掲示用のポスターを準備し、協力校も含めて周知に努めた。地域への周知はポスターにとどまり、積極的にアピールが必要。 古紙・アルミ缶の回収・搬入などのボランティアを年数回行い地域の方と協力して実施できた。今後は定期化したい。	3			4		

	(4) 生徒会活動の充実 活性化と美化活動への積極的取り組み。 定時制との交流の深化。 生徒会新聞で、生徒会活動の周知と帰属意識を高めての自己肯定感の育成。	校内美化活動は生徒会により定着してきた。生徒会以外の生徒への協力の呼びかけがさらに必要。 定時制の文化祭でバザーを行い、通信制の体育祭で定時制が準備協力をする形が定着した。今後、地域のリサイクル活動にも協力して参加できるようにしたい。 定期的に生徒会役員が集まり、新聞作りに積極的に取り組んだ。写真等も掲載し紙面が充実してきた。	3			3		
--	--	---	---	--	--	---	--	--